

周南市庁舎建設検討市民委員会（第7回） 議事の概要

日 時	平成25年5月27日（月） 18時～20時
会 場	周南市役所 3階 防災対策室
出席者	委員10名（石丸委員、岡寺委員、烏田委員、熊野委員、齊藤委員、佐伯委員、藤本委員、村越委員、目山委員、矢守委員） 事務局9名（住田企画総務部長、木村総務課長、福本庁舎建設準備室長、杉岡室長補佐、重國、田内、貞長、幡部、吉村）、周南市庁舎建設基本計画策定業務受注者日建設計3名
欠席者	なし

1. 開会

2. 今年度のスケジュールの確認 （事務局説明）

3. 議題（配置計画について、駐車場について）

委員：比較表の2項目は、『「安心・安全」の拠点』とのことだが、建物の屋上利用の可否や、エネルギー負荷の大小についての視点も加えるべき。例えば、屋上はヘリポートとしての利用、エネルギー負荷は小さければライフラインが途絶えても長く持つというようなことにつながる。またソーラーパネルを配置してライフラインがストップしても昼間はある程度必要電力をカバーできるといったことや、階高を低くして昇降機に頼らず上下移動ができるといった工夫もあるかと思う。外装は、窓が開けられないカーテンウォールにした場合、東京では震災時に換気できなかった例もあると聞く。

BCP という観点から有利な項目は、評価の対象になる。基本設計の条件にするだけでなく、今検討できることはしておくべきだと考える。何を評価項目とするかはまだ検討の余地がある。

事務局：ヘリポート設置、階段の利用しやすさなど、BCPの視点を加えてもう少し検討したい。

委員：初めて具体的な絵が出て見やすい。しかし、つくりやすさを重視して比較検討しているように見え、使う側の使いやすさを重視しているように見えない。配置の仕方などが敷地スペースの都合で合理性から考えられているように感じたためだが、どのように考えているか。

事務局：配置図の中に本館・西本館・東本館・書庫棟を赤破線で示しているが、書庫棟には防災関連の設備が集中しており、その移設は難しい。書庫棟が制約となっているため、案に自由度が少ないと言われる点は確かにあるかと思うが、実現性を考慮した結果である。

書庫棟を残しつつ、最終的にできたときに良いものにしたいとは考えているが、例えばC案を西本館の方に配置できるかという、なかなか難しい。

これは事務局の考えであり、駐車場や賑わいのあり方から別の案もあるかと思うので、ご意見を頂ければそれについても考えていきたい。

委員：既存建物と重ならない範囲でつくるというだけでなく、専門的には分からないが、新築をつくりつつ一方で既存建物を壊しながら、といった作り方もありうるのではと思ったが、どうか。以前他の委員がおっしゃっていたような、あまり高そうなものにならないということが印象に残っていて、それはつくりかたの工夫でできることでもあるのではと思った。

委員長：実際に工事が始まれば工事区画も必要になるといったことも考慮が要る。

委員：岐山通りに対する圧迫感については配慮しているが、西側、北側への影響については考えているか。最低限の法的な条件は満たすようにするので、特にそれ以上は配慮していないということか。

事務局：周辺へは特に日照権や工事中の騒音について配慮していく必要があると考えている。それについては周南市中高層建築物指導要綱という手続きがあり、配置計画が決まった段階で近隣の方へは説明をしていく。例えば用途地域上は日影の規制はかからないが、日影図などを用いてご理解を求めていくということで、法的にできれば何でもしていくという考えではない。

委員：今の時点では、西側・北側への影響については考えていないのか。

事務局：日影については、C案やD案は北側の敷地に影が落ちる分、A案やB案より影響は小さいといったイメージは持っている。

委員長：日影は、建物の高さが高いものより建物が東西方向に長い方が影響が大きくなるといった特徴がある。C案は東西方向に長いので、そういった点も考慮した検証が必要である。

委員：建築を仕事にしている者として、私の解釈で各案の特徴を噛み砕いてみたい。

【A案】基本的なボリュームを北側に配置し、北面に採光を取れるオーソドックスな案。岐山通りに圧迫感があるのが一つ問題ではある。また市民活動スペースが通りから奥まっている点が気になるが、これは市民活動スペースを高層棟の通り側と入れ替え、通り側を低層にすることができれば、岐山通り側への影響が随分変わってくるし、まちとのつながりもより出てくると思う。

【B案】景観の観点でいうと岐山通りに対し半分以上が駐車場であり、寂しい印象。一方で市民利用スペースは通りに近いので、まちとのつながりが持てる可能性はある。南北方向に長いことについては、西日による日射の影響だけでなく、西側の低層のまちに対する圧迫感がすごいのでは。A案も圧迫感がないわけではないが、B案よりは少ないと思う。

【C案】敷地条件を考慮しなければ効率的だと思うが、四方八方に圧迫感があるし、生活のクオリティ上げていこうとする時代の流れの中、四角四面で単調であり、外観を工夫しても墓石のような冷たい建物になるような気がする。一つのボリュームで出来ているので、まちなみに対して圧迫感も出やすいかと思うので、もう少しボリュームを分割していくようなことができるとまちなみになじむ。

【D案】ツインタワーとし、ボリュームを分割してまちのスケールに貢献しているが、一方でツインタワーは非効率的とも言えるので、その点をどう考えるか。完全に分離するというよりは、一部をつないでL型のようにして使うことも機能面等を考えるとあるかと思う。

事務局：建物の形状は、現時点では配置形状の比較のためあえて単純な四角にしている。L型など形を特徴づけるとそのイメージがついてまわるのではと考えた。まずは配置のイメージ、例えば東西に長いのか南北に長いのか、建物を広くして窓口の集約などを図るか、ボリューム分割してまちなみに溶け込むようにするか、などを議論して頂くものとして、最終的な形状については今後ということでご理解頂ければと思う。

委員：デザイン的な手柄も、判断するための物差しとしてある程度は具体的に示してほしい。多少分割されているのかなどは重要な点で、基本設計ではなくこの時点である程度議論していく必要があると思う。

市民利用スペースも、大きな目玉ではないにしても、如何に市民に親しみをもってもらおうかと

いう意味では重要なので、これが御幸通りや岐山通りにどうつながっていくかということを考えておく必要がある。

委員：感想だが、昨年11月に岩国市庁舎に見学に行った際のイメージがあるので、何となくC案がよく見えてしまう。

質問だが、地下は設けないのか。実際は地下を設けることになるのではと思うが、岩国では地下に書庫や防災センターを配置し、1階は市民に開放していた。地下は高くつくのか。

地下があり地上6階とするのと、地下がなくて地上7階とするのはどちらがいいのか。

駐車場の話はまたあとで言うが、民間ベースで言えば台数が多い。

事務局：地下の有無は地盤や地下水の状況を考慮して判断する必要がある。今年度に別途地質調査を予定しており、その結果を踏まえて地下の判断材料も出せるようになると思う。

地下は、掘ればそれだけ土が出るので費用もかかるので、可能であるなら地上で処理するのがよいと思う。地下免震を採用するのであれば、コストはよりかかるものの駐車場や倉庫として利用することは考えられる。一般的には地下を使うとコストは上がる。

委員長：地下を使えば大分コスト増になる。

委員：一般的に2万㎡の建物をつくるにあたって、6階建てか8階建てかを決める要因は何か。

委員：構造では。8階建ての方が工期も長くなり高くもなるう。

委員：C案だと圧迫感があるということであれば、一部を高くして周囲の高さを抑えるといった方法もあるのではと思うが。

委員：技術的にある程度コスト差を小さくしていく方法はあるとは思う。しかし、コストは確かに市の財政面を考えると重要な指標だが、建物はそれだけではないのでは。市庁舎はまちのシンボルであり、市民が住んでいることに誇りに持てるまちなみの拠点になるべきもの。愛着や誇りを生むためのかたちやソフト、雰囲気が必要。安くつくことは当然必要ではあるが、そういったことにつなげる多少のデザインは必要経費だと思う。格好つけるということではなく、構造や防災機能と同じようにデザインも捉える必要があり、バランスよくお金をかけることの議論が必要だと思う。

副委員長：そのことに関係するが、委員がおっしゃった圧迫感のある、なしは基本計画段階である程度「ルール」を決めた方がいいのでは。

私案だが、岐山通り側は、例えば図書館などは大体3階程度だが、例えば3階ということルールにするのが、景観とかまちなみづくりにはいいのでは。まちなみには貢献してほしいが、6階や8階建ては避けたいということなら、高さは低層で抑えてほしいといったことを委員会で共有する。セットバックをしてほしい、とか。

デザインに関する議論をしだすときりがなくなる。どんなデザインが提案されようと、まちなみづくりには貢献できているようにすることが重要では。

委員：目山委員の意見は大切なこと。駐車場も結構大きいので、立体駐車場にするかどうかで全くイメージが変わってくる。例えば議員用は別の場所とする（必要台数を減らす）こともあるかもしれない。立体駐車場をつくるのであれば、配置計画の時から、建物と同じように景観に配慮することを考えてもらう必要がある。

建物についてはもう少し低層部分を増やして市民の利便性を高めていけば、高さを下げることにもつながると思う。

委員長：この地区は景観法でも重要な場所として、重点地区に位置付けられている。立体駐車場は景観

への影響が大きいので、確かに配慮すべきこと。

事務局：一旦300台として、敷地内で取ろうとすれば、このように立体駐車場などが必要になるという
ことでお示ししている。場所などには配慮が要る。

委員：建物は面積2万㎡として、景観に配慮するとかいう配置になるかとは思いますが、利用しやすさ
ということはどうか。四角いかたちの方が利用しやすいといったことはあるのか。使いやすさ
の点で配置・かたちに関わることは、評価の視点に加えておくべき。

委員長：ユニバーサルデザインに配慮するということであり、大事なこと。

委員：使いやすさについて、車でアクセスすることを考えると車から入口へのアプローチが、できれ
ば短くて、段差が少なく、建物はできれば窓口が1フロアに集約されていてということが理
想と思う。機能的・バリアフリーはどの案でもある程度実現できるのでは。C案は面積が広く
バリアフリー・使いやすさでいうとそうだが、ある程度そのあたりは他の案でも許容しうるか
と思う。あとは次の段階で、使いやすくしていけるかだと思う。

委員：専門的なことは分からないが、市民広場、市民利用スペースが分かりやすいものは魅力を感じ
るが、A案・B案はそれらが隣接しているが、C案・D案は市民利用スペースが建物の中にあ
る。ガラス張りでカフェなどがあればおしゃれだと思うが、建物の中と外だと印象も違う。具
体的な使い方のイメージはあるか。

事務局：新庁舎の中にそういう機能が入ることはあるが、一旦は基本構想でいうと18,000㎡「ブ
ラス2,000㎡」としたうちの一部として設定している。C案・D案では中と外一緒に使う
こともできる配置にしているが、この配置に固執しているわけではない。

委員：極端な意見として、市民の代表である議会を市民に見えるようにするといったこともあるかと
思う。

スペースの設定は、あくまで今は計算上のことと理解している。

本当はどの位置にどういうものをという要望が皆さんの話し合いの中から出てくれば設計条
件になっていく。検討事項に入れておくべき視点があれば、他の委員も言っておいた方がいい。

委員：さきほどつくり方を考慮したバリエーションに見えるといったが、使い方を見ると、これだ
け奥行きある駐車場だと危なくて仕方ないとか、そのあたりを考えてないとか言われそうに思
う。用地がないという理由なら仕方ないが、この中から選ぶ必要があるなら、使う側の意見
を見据えてこうなった、という説明もしてもらいたい。

事務局：おもいやり駐車場（車いすの方などが利用しやすい、スペースの大きな駐車場）はなるべく建
物の近くに配置するようにしたい。詳細は基本設計で検討していきたい。導入機能については
7月の委員会で議論して反映し、基本設計につなげるということもできる。

基本計画で決められることもあるかもしれないし、今は言葉で整理しておき、基本設計でつめ
ていく性質のものもあると思う。

委員：配置計画として大体の場所を決めるということであれば仕方ないが、配置は皆さんはこれでよ
いのか。

委員：コンシェルジェがいて、窓口が1フロアに集約して並んでいて、市民はそこにいけばよく、対
応する課の担当者は2階までに配置され必要に応じて降りてくる、あるいはもっと詳しい対応
が必要になった場合はその窓口に案内される。こういった対応ができれば、たらい回しにされ
ている感じは受けない。

3月にそのような対応をしている市庁舎に行く機会があった。コンシェルジェは7～8人おり、

常時ではないが年度末などは対応しているとのこと。名札に「市民コンシェルジュ」と書いてあり、1時間単位などで職員が交代で対応しているようだ。そういったことができれば、ソフトウェアで対応できることなので、建物は柔軟に考えられる。

導入機能のところで議論していけば解決できるものもある。その議論などを受け、後日あらためて配置計画にフィードバックしてもいいかもしれない。6階建ては圧迫感があるというのであれば、街路に対してボリュームを下げるというルールが決められるなら、かたち・配置はある程度決まってこざるを得ないかと思う。

配置計画はこれらの案からこれを選ぶ、といったものではなく、街路に対するつくり方の思想とか、窓口に入ってから対応とか、そういうことを今回と次回で議論できればと思う。今日示された案は、「この中から選べ」というものではなくて「たたき台」なので、そういった議論をしていくことが大事。

委員長：ソフトウェアとしての対応もある。時間も限られるので、駐車場の方向性についてだが、300台程度ということではいいか。

委員：窓口部門以外の台数について、人口は平成24年を使用しているが、10年後、20年後を見越した場合、自動車分担率は6割のままか。ネットスーパーなど、電話やインターネットを通じて運んでくれるサービスも浸透してきている。ものは届けてもらうのが当たり前といった状態になっていく可能性もある。

委員：7ページ目（必要駐車台数の算定）で不適切な点を挙げるとすると、既往研究を用いた推計については、既往研究の年次を入れてほしい。調査がいつ、どの地域を対象にしたものか、誤解が出ないように。東京・大阪と周南は大分状況が違う。

①「現状の各庁舎の駐車台数からの推計」は「積み上げ」と読み変えた方がいい。公用車は5台減らしているが、実際減らせると思うが、「5」台の根拠がないなら290台そのままの方がいい。「推計」ではなく「事実」だけとする。数字がひとり歩きすることはないと思うが、「推計」というとすごい手法を使って割り出したように誤解を与えるおそれがあるのでやめた方がいい。

②「既往研究を用いた推計」の自動車分担率60%は、これは道路交通センサス調査の年やその翌年にアンケート調査をやるもので、3%を抽出した結果に、33倍をかけて出しているため、ぶれ幅がある。年次については22年にも道路交通センサス調査やっているが、数字が公表されていないので使っていないということだろう。人の動きを調べたパーソントリップ調査は11年しかない。が、10年前と今とではネット環境などが違うため、自動車分担率は今では若干減るような気がする。国交省の大規模マニュアルは、自分も10年以上前に仕事で仙台の商業施設を事例に調査に関わったことがある。年次を書いたほうがいい。これについてはあまり比較するものがないので、この数値を信用してよいと思う。

他の委員がおっしゃるとおり、住民票一つとっても、郵便局でも取れるレベルになってくるので、皆が庁舎に必要なことをしにくるのか、あるいはターゲットが決まっている行為は身近なもので済ませられるようになるのかといったことにも関連してくるが、市民の身近な窓口は多様化してくると思う。周南市の自動車の分担率60%は高いと思うが、現在の庁舎そのものについては低くはないと思う。公共交通に依存していない立地であり、今後も自動車で移動する利便性を捨て切ることではないと思うので。

以上のように概念が違う数値を組み合わせで推計しているので、分担率60%が実際は55%

とか、そういった違いはあるかもしれないが、目安としてはこの程度かなと思う。出てきた結論の数値がもっともらしいので、そのように感じてしまう。

委員：いずれにしても推論するにあたって、なかなかデータがない中で、ある程度調査等を根拠にやっていくことも必要だが、サービスの多様化により、不要普及の来庁目的が減る可能性もある。将来、人口は増えないことを考えると、利用台数が減ってきたとき、駐車スペースが無駄な場所になっていく可能性がある。世の中の流れを考えると将来的にはここは地価が高い場所になっていくと思うが、そこに更地に近い場所があることがどうか。ただの駐車場でなく、市民利用もできる場、単に駐車場だけでなく、市民が集まれる場という視点で、駐車場が計画できないかと思う。

委員長：広い駐車場だと庁舎の近くから埋まって、周辺は空いている方が多いかもしれない。毎時間空くならイベント空間にするとか臨機応変な考え方もできるかと思う。

委員：車の利用について、将来どのように考えるか市のメッセージが入っているべきだと思う。現在の積み上げと同程度という場合は、車社会は変えないというメッセージに感じる。人口減少があっても、平均寿命と高齢化がこのままであれば、車を使う人の割合自体は変わらないという考え方もある。

車がなくても中心市街地に来ることが出来るとか、パーク&ライドとまではいかないかもしれないが、今後こんなまちづくりをしたいというメッセージを込めてほしい。

委員：私は逆に、最初資料を見たとき、駐車台数は少ないと思った。例えばホールでイベントがあると、200人、300人が一度に集まる。1台に何人乗るかでも違うが、すぐに駐車場はいっぱいになる。

現実をみると、日頃は使わなくても、使うときは皆一斉に使うような状況もある。文化会館とかまさにそう。それを考えると、どちらかというとき少ないかと。中心市街地活性化基本計画では、中心部に皆が集まるということがコンセプトだった。どんどん使ってほしいということで、広いスペースを取っておくという考え方もあると思う。

委員長：中心市街地活性化の観点からここに留めてもらうという考えかたもあるというご意見。皆さん台数はどうでしょう、最低でも300台程度は必要ということでしょうか。

委員：前置きとして、将来的に柔軟な使い方もある程度加味した上で、これで進むということであればよい。

委員長：今度は庁舎の規模もすこし大きくなり、イベントをやるのであればその分人も来ることになる。中心市街地活性化を加味すれば余裕が必要ということでしょうか。

委員：駐車場台数は、現在市街地に1,800台分ある。ただではないので決して便利とは言えないが、駅前には立体駐車場もある。それらを使いやすくするためのソフトを工夫していくことが最優先だと思うが、まちの中で歩行者を優先していく、道路は移動空間ではなく滞留空間にして行こうという流れがあるので、中心部に車で乗り入れることは少し遠慮してもらって、パーク&ライドのためにその分の駐車場を確保していくということもあるかもしれない。そういう意味ではバランスが取れているように思う。

委員長：委員会では、最低でも300台ということでしょうか。

委員：立体駐車場をつくることになると、景観も問題にする必要がある。

委員：敷地が平らでないので、高低差を利用するなど、景観を意識しながら工夫の余地があるのでは。低いところに立体的に入っていかどうか。

市民館の方にも駐車場がある。あっちもこっちもいろいろあるので、もう少しつなげて考えられるとよい。言いだすときりがないが。

委員：立体駐車場のあり方は考えてほしい。人車分離ということでいうと他の委員がいうように、子連れが端に停めて歩いてくるなら、危なっかしいかもしれないので、細かいことは今からだと思うが、端に停めれば、歩道のようなものがあって人専用の道があるような計画に思ってもらえればと思う。どうしても人と車が交わる箇所は出てくるが、少しでも減らすことができる。

委員長：当然大事なこと。歩行者が安全に歩ける歩行帯などを、駐車場計画の中で考える必要がある。

委員：立体駐車場をどうするか議論がある。「地下免震層駐車場案」のコストは、免震構造にするコストも含めてか、それとも単に余計に地下を掘る分か。

事務局：後者である。免震層にプラスで地下を掘る分の額。免震構造にするか自体はまだ決まっていない。

委員：どの部分を弱者対応の駐車場にするかはあるが、「地下免震層駐車場案」は死角が増えるので、安全確保上問題がないかが気になる。

「市民利用スペース上部駐車場案」は、景観的には立体駐車場は優れないものが多く、外壁を多少デザインしても人の目線に近く、目立つところにこういうものをつくること自体がどうか。つくるなら「自走式簡易立体駐車場案」のように2層程度であれば、高さ7m程度であろうから、そう影響はないかと思う。あとはその部分を如何に圧迫感がないようなデザインにしていけるか。3つの駐車場比較中ではそれが現実的かと思う。

委員：駐車場を地下につくるなら管理面でも公用車がほとんどになるのでは。その場合はセキュリティはあまり問題ないかと思う。

B案・C案・D案で平面に確保している170台分は市民用として必要な台数に近いので、市民利用を想定しているのかもしれないが、歩道は設けたりスピードを落とさせるような工夫をしたり細やかなことをやりだすとこんなには入らないと思う。

余裕があれば駐車場ビルは別で設け、公用車はそこからのほうがいいが。そういう例もよくある。私が知るのは福山の図書館。震災復興の公園だったと思うが、建物全体の中に駐車場ビルを合築しており、その外側をスリットで覆っているのであまり見苦しくない。

委員：立体駐車場は出すのに苦労する。

委員：本当は、イベントのときはマストラを使えるようにするなどして、イベントにそのスペースを使えた方が望ましい。

委員：立体駐車場はないのがベストだが、市民館側含めたマスタープランをいつまでつくるか、情報がほしい。

委員：景観は何も見えていないので分からないが、これ以上自動車台数が増えるということになると、渋滞が増えるなど、まわりの環境への影響を考えていく必要がある。

委員：今回の案だと公用車用は43%。公用車を減らして、不足であればタクシーと契約するとか、そういう努力をする必要がある。公用車は結構遊んでいるものもあるので、このような設定は民間企業だったら通らない。

事務局：本庁の今の状況を見ると、車が全て出払うことがよくある。

委員：職員個人用は含まれているのか。

事務局：含まれていない。

事務局：ここは公用車のみ取り上げている。

委員：公用車が足りないときは、タクシーを呼んだらいい。発想を変えたらいい。

委員：公務の中には、他の場所の本庁機能に行く目的もあるだろうから、集約後は今まであった移動がなくなることはありうる。庁内を動くだけで用事が済むなら本当は公用車による移動は減るはず。だが今それをすぐ積み上げて減らせるかは別。

委員：減らすと決めれば、人間はそう動くものだ。

事務局：市役所の利用形態は必ずしも民間企業と同じではない。公用車は主には福祉関係がよく使っている。タクシーが来るまで待つようにするかと言うと、難しい点もある。今年度予算でタクシー利用も検討したが、それを定着化させる前提は、積み上げる数値としてはできないところがある。

委員：公用車が減らせないと説明はよく分からない。それほど外出率が高いのであれば、いない人の分を考慮し、庁舎の延べ床面積ももう少し小さくできるのでは。

事務局：執務環境調査の報告をしたと思うが、その中では文書量を50%削減する条件で、22,500㎡が必要とのことであった。本当に納められるかは今後検証していく必要があるが、それを2万㎡と置いている。

本来なされるべきものがなされていなかったり、通路が狭かったりなど市民の方にも我慢してもらっている。職員数700人に対して、本来あるべき姿として積み上げた面積は約23,000㎡ということにはなっている。

委員：説明は、分かったような、分からないようなところがあるので、もう少し分かりやすい説明を用意してもらったほうがいい。

委員長：そろそろ方向性をまとめたい。

委員：立体駐車場は10年後、15年後のメンテナンスの費用もかかる可能性があるのでは。

委員：かかるが、つくりかたでかわってくる。昨今あまりメンテナンスに予算がつきにくいようだが、材料の選択などでメンテナンスがしやすいように設計されていくであろうという風には予想できる。

委員：公用車台数130台は減らせない、庁舎の面積もそうというのは、市民側からはもう少し市民に寄り添った説明をしてほしいと思う。130台にするからこういったことをできるようにする、とか。

銀行がそうだが、待ち時間を感じさせないレイアウトなども論理的にあるので、市民に寄り添った提案をしていくということを充実させてもらえればと思う。

委員長：概ね300台ということはよいか。公用車の台数削減は努力目標として。

委員：敷地外の利用可能性も探って欲しい。その想定の上に300台ということにしないと、今日の段階で全部処理できたということではないと思う。

委員長：今日は方向性を決めたい。隣の市民館の有効利用についてももちろん検討がいる。

委員：300台を詰め込むときに、配置計画の今の案に立体駐車場を付け足しただけにならないようにしてほしい。8ページの絵は現にそうなっているが、きめ細かな景観や使い方を含め整合性あるプランにしていく必要がある。もう一度その辺りチェックする必要がある。景観というものさしで図るなら、簡単なボリュームパースを作成し、沿道の緑も含めてどう見えるか検証するなど。各案にそれを付けてもらえると分かりやすい。

委員：どちらかというフォトショップ（写真のコラージュ）でつくる世界。

委員長：ボリューム計画もふくめて、今後も検討をさせていただければありがたい。

景観重点地区ということもあって、できるだけ立駐はやめたいというのが皆さんの方向性ではと思う。今日のキーワードをみると、サステナビリティ（、愛着、使い勝手のよさ、まちなみにあった景観ルール、防災、など色々な考え方がでた。今の時代の流からだと省エネは欠かせない。他の委員がサステナビリティと言ったが、ライフサイクルアセスメント、20年でどのくらいの税金が費やされたのかといった視点でも考える必要がある。あとで光熱費がたくさんかかるということでは市民は納得しないのでは。今は国がゼロエネルギービルを推奨している。自前で太陽光パネルつけて、断熱性能高めるとか、そういう流れにはなっている。専門用語になるがCASBEE（建築環境総合性能評価システム）ランクができるだけ高いビルにしていく必要もある。蛍光灯をLEDにすると、初期投資はかかるが、運営コストは下がるので、そういう視点が必要と思う。

事務局：宿題もふまえ、7月に向け、そういう点を踏まえ検討したい。

4. その他

事務局：7月4日・5日で先例市視察として東広島市、出雲市を予定している。公用車でいく予定。今月末までに、参加の可否についてご連絡を。

5. 次回委員会日程

次回開催は、7月29日（月）18時からとする。